

2011年12月10日（土）名古屋

## 名古屋でもリーディングの勉強をしましょう。第3回です。

どうも、前田です。ここから下は12月4日に東京で実施される第2回の案内文とほぼ同じです。違うのは、参加費と、セミナーの講師が1人である点です。遠隔レッスンは2人です。東京で実施する第2回のセミナーを名古屋でも実施し、遠隔レッスンは「東京&名古屋が共通」ということです。東京で使う「模試2」を名古屋でも使います。では、よろしければ、微妙に違う案内文をお読みください。

2011年8月14日に「TOEIC 模試&リーディングセッション（RS）徹底復習」というイベントを開催しました。そこで使用した模試を「模試1」とすれば、今回使うのは「模試2」です。

両方ともボクが監修しています。それらの「予想スコア」を算出するために、モニタリング試験をイベントとして実施しているわけです。ですから、データ収集が目的ですが、せっかくの機会なので力を伸ばすためのセミナーと遠隔レッスンをセットにして第2回を12月4日に東京で開催します。加えて、翌週に第3回を名古屋で実施することにしました。

### セミナーは模試の直後

答え合わせの前に、どの問題でどう考え、なぜそれを選んだのか。自信があるのか、単なる塗り絵なのか。参加者がグループ内でワイワイ確認した後で、正解や不正解の理由が解説されます。**本来は孤独な作業**である模試に、このようなスタイルで取り組むのは非常に有益だと、第1回の参加者の表情を見て確信しました。「これ、(B)でいいよね。そうだよね～」とグループ全員の意見が一致したのに、ボクのクチから出た正解は(C)。悲しむべき瞬間に楽しそうに笑う。そんな空間が生まれました。一応、言っておきますが、参加者は一般的な学習者です。変人は少ししかいませんでした。

### 遠隔レッスンは後日

遠隔レッスンは、イベント開催日より後に始まります。メールで届くリンクを叩けば音声ファイルをダウンロードでき、自宅を受講できます。模試冊子は現場で進呈されますが「解説」や「訳」はありません。ですから、復習をしやすくするための音声講義が「遠隔レッスン」です。

### 講師は・・・

セミナーの講師は、第1回はボクだけでした。第2回にはJayこと早川幸治さんが参加しますが、第3回は再びボクだけです。ただし、遠隔レッスンは第2回と共通ですのでボクとJayさんが2人がかりで作っていきます。**家に来ない家庭教師としてアナタを訪問**します。

Jayさんとボクは議論しました。内容について。

**学習している方々が、普段、最もサボっていることは何か？**

そして、

## そのせいで、試験本番で困っていることは何か？

出てきた答えが、パート7です。そこで、時間の制約があるセミナーではパート5と6をおもに扱い、時間の制約がゆるい遠隔レッスンではパート7に没頭します。全文書を精読。正解の導き方はもちろん、不正解の理由と削除方法、設問に無関係だった重要語句の解説、類義語の紹介など、とにかく「1つ1つの素材から、スコアアップに必ず役立つとボクたちが判断したことを全部話す」のが遠隔レッスンです。音声なので一方通行の講義ですが、何かしら作業をしていただくことはあります。「はい、じゃ、今から1分で読んでください」なんて指示も出るでしょう。家庭教師ですから。要するに、あなたが目の前にいるつもりでボクらは話し、録音して送っちゃう。そういうレッスンです。ここはひとつ、謙遜を美德とするボクが「必ず役立つ」と言っている意味を十分に考えてみてください。ところで、この遠隔レッスンはパート7だけでなく、パート5とパート6にも効果的です。

## どうして？

ETSがどうやってパート5を作っているか知っていますか。知りませんよね。まだ、ETS視察ツアーに参加したことがないので、ボクも知りません。ですが、この事実は知っています。一部の難しい語彙問題を除き、パート5は、パート7に登場しがちな語句を利用して作られることが多いのです。

例えば、新公式問題集のあるページに **provide some relief to** という表現があります。パート7に。そして、以前、公開テストのパート5に **provide ----- to** に **relief** を選ばせる問題が出ました。前後の文脈も酷似していました。別に新公式問題集でなくても、**文書**を普段から読んでいれば、正解を選ぶのに苦労しません。このレベルであれば。同様に、公開テストのパート7には、パート5に利用される語句がウジャウジャあります。ですから、パート7の語句と仲良くしておけば、たいていのパート5と6の問題は解けるようになるということです。その逆は疑問。もちろん、無駄を省きつつ、良質な教材を使ってたくさん量をこなすことが前提ですけどね。こんなことを言うと、「パート5と6の対策には、それ専用の問題集を使う方が効率的でしょ？」と思われるかも知れませんが、先に答えておきます。ボクらは別にパート5と6の勉強をやめてくださいと言っているわけではなく、パート7に関しても、最低やるべきことをやりましょうよ、と言いたいだけです。**最もたくさん英文を読むのが試験当日**だなんて人が多いですから。逆に、試験当日に読む英文の量が、普段の1日の学習時より少ないのであれば、このような企画は不要ですから、ぜひ今後も英文リーディングを続けていってください。

最近、こんなことを耳にしました。

## 「あ～、パート7きつい。速読しなきゃ」

もし、あなたが**精読**を普段ろくにしていないのであれば、そんなことを言わないでくださいね。速読で

きない理由は「速読の練習をしていない」ことではなくて、ま、それもあるでしょうが、それ以前に精読もしていないことだと思いますよ。ていねいに正しく英語を読むことすらせずに、速読できるようにはならないものです。まあ、理解度を犠牲にすれば速読は簡単にできますが、それで済むなら「速読しなきゃ」なんて言葉は出てこないですよ。すでにパート 7 で困っていないはずですから。速読のためのスキルは存在しないことはないでしょうが、それは精読ならできる、つまり「読むための基盤を持っている」人が学ぶスキルです。TOEIC のリーディングセクションでより大事なものは「速読のための速読」よりは、むしろ、**精読できる力と、速い精読**です。念のため。

で、ですね。

遠隔レッスンは精読メインなので、あなたがパート 5 と 6 のスコアを伸ばすのに大きく貢献しますが、それをより明確にするため、ボクらも **ETS をマネする** ことにしました。つまり、パート 7 を利用しつつパート 5 形式の練習問題を作ります。違いは何か。選択肢です。本来なら、空所のない、正しい英文を読んで理解できれば、穴埋めになって選択肢が 4 つ出現しても正解を選ばなきゃおかしいのですが、実際にはボコボコ間違えるのが現実。**the construction contract** という名詞を見て、**本当に理解できている** なら、**the ----- contract** に **constructive** を選ぶ理由はないのです。でも、選んでしまう。だって人間だもの。であれば、パート 5 形式の練習問題を提供するのもアリだろうと考えました。

### ちょっと面倒ですが・・・

ボクたちが、パート 7 から重要な語句を含む文を引っこ抜いて、穴埋め問題と選択肢を 4 つ作ります。**人間による人間のための**練習問題を音声講義と一緒に送ります。実は、Jayさんとボクがこのアイデアを思いついた時に、まゆ毛が微妙に動きました。「面倒だ。そんなのやめろ」とまゆ毛たちは強く反発しましたが、「単行本では無理だよ、こんなの」とボクのクチが言ってしまったのです。2人とも、本ではできないことをやるのが好きなので、まゆ毛の抵抗をなしく実行することを決め、これを「確認テスト」とフツーに命名しました。合計 12 回の確認テストを作ります。

遠隔レッスンの曜日は約束できませんが、**全部で 12 時間の音声 (wma 形式) を保証します**。1 回あたり約 1 時間の講義が 12 回 (Jayさんとボクが交互) というイメージですが、短い回があったら回数を増やすことで総時間を保証します。週 1 回か 2 回の配信なので、終了は 2012 年 1 月の公開テスト前後でしょう。公開テストの日程に合わせたわけではありませんが、偶然そうなります。正直、手間がかかる企画ですが、オリジナル講義を作っていきます。もちろん、ダウンロードした後は何度も聞けます。

ご存じのとおり、模試は TOEIC 対策をするにしても英語学習をするにしても賢く使えば効果的です。ただ、**2 時間の模試に取り組むのは意外と難しい** ですよ。ましてや、きちんと 1 人で復習をするにはゴロゴロ 13 並みの強靱な精神力が必要となります。今回、リーディングに特化した学習を我々がお手伝いしますので、興味があればぜひご参加ください。

### Jay って何者なのか？

「早川幸治」でインターネットを検索すれば分かりますので、ここでは検索しても出てこない紹介をします。彼は、日本で最も長く TOEIC を教えているロバート・ヒルキ先生とボクが 2005 年に始めた「TOEIC テスト スコアアップ指導者養成講座」の参加者です。第 1 回に参加して以来、毎年参加している**変態熱血講師**です。毎年参加する理由は 1 つだけ。成果の出る、効果的な指導法を学び続けるためです。

彼は、もともと英会話センセでしたが、その講座で人生が変わり、TOEIC 専門講師になりました。はっきり言って、指導者としてヒョコでした。当時は、ところが、指導者としての向上心が強く、学び続け、今では「講師が集まる指導者向け合宿」で**ベテラン講師をうならせる**パフォーマンスを披露する講師になっています。正直に言えば、ボクも部分的に彼のモノマネをしています。それくらい指導法の研究に熱心で、成果を出す講師なのです。

また、言うまでもなく、TOEIC の研究にも熱心です。今年の夏に「アエライングリッシュ」が企画した「2 カ月で 200 点アップ」という特集では、彼は 470 点だったある女性のスコアを 2 カ月で 800 点にしたのです。330 点アップです。彼女によれば「先生に言われたことだけをやりました」とのこと。その企画の裏側で彼がやったことを、先に述べた合宿で教えてもらいましたが、スコアアップの本質をとらえた、素晴らしい指導プランでした。



これ以上 Jay さんを褒めるとウソくさくなるのでやめておきます。要するに、今回の遠隔レッスンの講師は普通じゃないですよ、と言いたいです。では、イベント概要を列挙します。

### イベント概要 第 3 回 TOEIC 模試&RS 徹底復習

日時：2011 年 12 月 10 日（土） 12:40～17:50 受付 12:20 イベントは 12:40 開始 模試は 13:00 開始

会場：名駅モリシタビル 7 階（第 2+3 会議室）名古屋駅から徒歩 4 分（お申込者には地図が送られます）

定員：24 名

講師：ヒロ前田 \*遠隔レッスン=前田+Jay（早川幸治）

内容：模試 2 時間+セミナー 2.5 時間+遠隔レッスン 12 時間+確認テスト 12 回

料金：12,600 円（税込）

持物：鉛筆、消しゴム、腕時計 \*身分証明書、受験票は不要

以下をお持ち帰りいただけます。（制作中の教材なので音声と解説と訳はお持ち帰りいただけません）

模試の問題冊子／解答一覧／トランスクリプト／マークシート

**遅刻すると受験も入場もできません。** 15 時 10 分に部屋に戻ってきてくだされば、セミナーにはご参加いただけます。

### 参加資格

2011 年 1 月以降に受験した TOEIC 公開テストか IP テストの**最新スコアをセクション別に**申告していただくことです。申告は当日で結構です。その申告スコアは模試を制作しているアルクに渡され、予想ス

コア算出のための分析に使用されます。2011年1月から10月までのスコアがなく、2011年11月の公開テストを受験する方は、12月下旬にスコアが発表されたらご提供いただくことを前提に参加可能です。

この「モニタリング試験の受験者の予想スコア」は**返却されません**。理由は単純です。その予想スコアは **TOEICを受験したことがない方**の予想スコアにはなるものの、モニタリング試験の受験者にとっては何の意味もないからです。そもそも、予想スコア算出のためのモニタリングですから、基本的に申告スコアと予想スコアは（ほぼ）一致することになりますし、申告スコアがあるということは「予想」をする必要がありません。申告スコアは「今のあなたの力」を示すことがデータ分析の前提ですから。もし、例えば、TOEICを受けたことがない方が混じって参加する場合は、その方々に予想スコアを出すことには一定の意味があると心から思いますが、実際はこの企画にそのような方はいないため、予想スコアを返却しないことにしました。ご了承ください。

### 模試2の特徴は・・・

まず、この200問をセットするために、既存のアイテム約800問に目を通し、採否を決定しました。模試1の時は約500問でしたが今回は増えています。それでも足りなかつたので、自分でたくさん書きました。例えば、パート3の会話を4つくらい、パート5の13問、パート6の1文書、パート7の確か3文書はボクが書きました。選択肢にいたっては、全体で770のうち、数えていませんが、たぶん300か500はボクが作りました。次に、フォントやレイアウトについて制作デスクに指示を出しました。この模試は本物のテストに似ています。どれくらい似ているかと言えば、まあ、宗兄弟やマナカナたちには完敗しますが、おすぎとピーコとはいい勝負ができるでしょう。「じゃあ、似てねーじゃねーか」という突っ込みはメールでは受け付けておりませんので、会場で直接お申し出ください。誠心誠意、できる限りの対応をさせていただきます。

### 特にこだわったのは「重さ」です。

実際に多くの方に受験していただかないと証明されませんが、模試2のパート7は**ヘビー級**だと思います。目指したのは「あら、読みやすいわね。でも解答が面倒だわ。あれ、もしかして895点を何度も取ってきたこの私が時間切れになるの？急がなきゃ！」です。これで分かりますよね、どういうことか。おすぎとピーコなのです。不当なヘビー級ではありません。

リーディングセッション全体の難易度は、すでに水面下で挑戦した方の結果から判断すると模試1より本物に近いです。公開テストで460から495を取る複数の方が挑戦したところ、誤答数は100問のうち0から10でした（ミス0問は1人）。分かる人には分かるでしょうが、そのような難易度を実現している市販の模試はほとんどないはず。まだ大規模にモニタリング試験を実施していないので大きいことは言えませんが、理想的な難易度になったと思っています。難し過ぎることなく、簡単でもない。教える人が「授業で使いたい」と思うレベルです。リスニングセッションについては、まだ録音が終わったばかりなので難易度は不明です。



ということで、参加を希望される方は「イベント概要」と「参加資格」を再確認し、この [フォーム](https://www.formzu.net/fgen.ex?ID=P55382974) からお申し込みください。リンクが機能していない場合は、こちらにアクセスしてください。同じフォームです → <https://www.formzu.net/fgen.ex?ID=P55382974>

お申し込みの期限は、空席があれば **11月30日24時** です。お申し込み完了後に、受講料の振込先をお知らせするメールが自動で送られます。アドレスが間違っていると届きませんのでご注意ください。また、メールサーバーが迷惑メールとして処理することがあるため、**迷惑メールフォルダ** もご確認ください。

以上です。

お読みいただき、ありがとうございました。一緒に勉強しましょう。

前田

追伸：

ゆとりある大きい部屋をとりました。